

# 山中漆器

## 歴史

16世紀の後半にろくろ師が真砂[まなご]の村(現在の山中温泉上流)に移り住んだことが始まりとされている。後に、木地師たちは下流の山中温泉の地に定住するようになったが、当時は白木地のままの挽物で湯治客相手の土産物にすぎなかった。

江戸時代半ば(18世紀中頃)には、京都などから漆塗りの技法を学んで栗色塗が始まった。後に、朱溜塗と呼ばれ、山中漆器の特色となった。また、全国より塗師や蒔絵師を招き、髹漆[きゅうしつ]や蒔絵の技術を習得した。

江戸時代の末には、木地挽きの名手である蓑屋平兵衛が千筋挽などを考案し、明治の初期には、筑城良太郎が毛筋や稲穂筋などを創案して挽物の技が確立した。

## 特色

ろくろを使った挽物技術が特色である。木地の肌に極細の筋を入れる加飾挽きは、山中漆器が最も得意とするもので、その手法は千筋をはじめ糸目筋、ろくろ目筋、稲穂筋、平溝筋、柄筋、ピリ筋など数十種に及ぶ。この時使われる各種小刀やカンナはすべて木地師の自作であり、作業に応じて使い分けられる。

筋挽きによって加飾されたものは、摺漆[ふきうるし]という木地に漆をしみ込ませて仕上げる方法により、木目をきわだたせ使い込むほどに味わい深いものにする。また、挽目をあらわした挽物の上に渦のような赤、黄、黒の漆で塗り分けた独楽塗りの技法も特色の一つである。

木地は堅く、狂いのないケヤキやトチ、水目桜を使い、縦木取りと呼ばれる独特の方法で、立木を自然な方向に木取りするため、歪みが生じにくく、堅牢である。

また、豪華な高蒔絵を施した茶道具、特に、棗[なつめ]の制作には定評がある。

挽物技術が平成22年4月2日、石川県無形文化財に指定された。



# 야마나카칠기



## 역사와 특색

야마나카칠기가 만들어지기 시작한 것은 16세기 후반으로 거슬러 올라간다. 한 사람의 목공선반사가 마나고무라(현재의 야마나카온천)에 살며, 선반기술을 그 곳에 전한 것이 시초라고 전해지고 있다. 그 후 마나고무라의 나무세공사들은 야마나카온천 마을에 옮겨 살면서, 온천객을 상대로 목제품을 팔며 생계를 꾸려 나갔다. 당초에는 다듬기만 한 민나무로 만들었을 뿐 칠은 하지 않았다. 18세기 중엽, 유명한 칠공을 전국에서 불러들여, 센스지비키, 슈도메누리, 고마누리 등 다양한 칠기법이 도입됐다. 단순한 토산품에서 미술공예품으로 전환함에 따라 야마나카칠기는 지역산업으로 발전해 갔다. 야마나카칠기는 녹로를 사용해 나무를 커는 기술이 특징이다. 나뭇결의 아름다움을 돋보이게 해주는 칠기법인 '후키우루시'도 야마나카칠기의 특징이다.

## 정보

주나生産地(주요 생산지)	加賀市(가가지)
주나製品名(주요 제품명)	飲食什器、茶道具(음식칠기, 차도구)
주나生産者(주요 생산자)	山中漆器連合協同組合(야마나카칠기 연합협동조합) 〒922-0111 加賀市山中温泉塚谷町4268-2(가가지 야마나카온센 스퀘어타니마치 이 268-2) TEL (0761)78-0305 FAX (0761)78-5205 MAIL ylca@kaga-tv.com http://www.kaga-tv.com/yamanaka/